

2026年度

事業計画書

事業所・委員会名

デイサービスセンター
しおかぜ下津井

策定者 センター長 小原 史吉

1. 2030年度ビジョン

法人共通	モラル・教養・技術を兼ね備えた職業人集団（プロフェッショナル）となり、地域から最も信頼される福祉ブランドを確立する
事業所	認知症ケアや機能訓練の個別指導ができ、入浴の知識を持っている介護職員やリハビリ専門職を揃えたプロフェッショナルな集団となり、個別リハビリに特化し全介護者に対応できる施設として、他よりも評価される事業所になる。

作成上の注意) 聞いた人が中身をイメージできること、これをユニットや職種やクラスなどチーム単位に分解する想定。

2. 前年度の振り返り

強み・得意／弱み・問題	広いスペースで楽しめる。マシンやプールなど選択肢が豊富 / 入浴の人数・時間が限られる、入浴の知識がない、リハビリ量が少ない、認知症ケアが分からない
機会・ニーズ／脅威・競合	健康を意識する人に対し、現在の自分を数値化し分析できる / 入浴施設があり運動設備がある複合施設

作成上の注意) 聞いた人が中身をイメージできること、1行にまとめてもOK

3. 当年度の戦略目標

戦略の柱	現状 (ビジョンに対する課題・問題点)	成果目標 (事業所の定量目標)	行動項目 (項目4に分解する)
(1) 組織風土変革 ・規則等理解、A B C Dの状況 ・関係の質の状況 ・言葉づかい、服装、マナーの状況 ・職員同士の協力体制の状況	業務の縦割りの弊害(認知症の理解不足) 認知症の利用者に対する言葉遣いが不適切	認知症の方やそうでない方に対しても、適切な言葉遣いで対応できるようになる(職員全員)	接遇・向上キャンペーンの実施 接遇チェック表を使用 認知症の勉強会の開催 毎月会議にて振り返りを行う
(2) 人材育成 ・職員の資格保有の状況 ・職員の常識・業務知識・技術の状況 ・現場のOJT体制の状況 ・職員のモチベーションの状況	介護士が5人いるが介護福祉士の免許が1人しかない 介護技術や知識が不足している 送迎者は介護の知識が乏しい リハビリについての知識が不足している	介護知識の基礎を全員習得(お茶の水、ベネッセ) 介護福祉取得予定(職員2名) 初任者認知症研修(職員1名) リハビリの知識を全員習得	webでの勉強会介護について PTによる勉強会リハビリについて(お茶の水、ベネッセ)
(3) サービス品質向上 ・サービス提供時間の状況 ・業務効率化、標準化の状況 ・利用者やご家族の満足度の状況 ・苦情や事故、その対応の状況	リハビリの回数を増やしてほしい 入浴の促進 外出や買い物やおいしい物をもっと 食べる機会を多くしてほしい イベントを増やしてほしい	月平均1.5~2回/人 5人(1日入浴) 買い物(月1回) 食事(特別食 月1回程度) 外出行事を増やす。(月1回)	業務改善(生産性向上委員会) ケアマネや利用者のお風呂見学会 マルナカや木村など 行事食に予算を付け、見せる食事 深山公園、日帰り旅行(年1回)など
(4) 経営基盤強化 ・事業収支の状況 ・稼働率の状況 ・施設・設備の状況 ・事業所固有のリスクの状況	令和6年度稼働率:年平均27人(1か月) 登録者の減少、介護重度化が見られる プールの設備の老朽化	稼働率:年平均33人(1か月) 登録人数45人(月~金)35人(土)	ケアマネのお風呂見学会 体組成計の体験会
(5) 地域支援強化 ・法人地域支援活動への参加の状況 ・地域住民からの認知度の状況 ・拠点独自の支援活動の状況	お祭りなどに参加 特養と混同されている 月に2回から3回程度参加	全員が年間の行事に参加できるようにする 地域の体操(月2回)	祇園祭り、四柱神社など 地域の体操に参加 栄養教室

作成上の注意) 文章にしない、箇条書きにする、数値化する、主語(何、誰など)を明確にする

事業所内標語

スローガン	リハビリ強化大作戦
-------	-----------

事業所の職員全員で取り組むものを、わかりやすいことばで表せるならグッドです!

4. 年間行動スケジュール

	戦略行動項目 (前掲項目3との関係をカッコ記載)	定例業務	法定研修・訓練 (参加者、人数、立合有無等をカッコ記載)
4月	接遇向上委員会(全員)認知症web・接遇チェック 生産性向上委員会(センター長、相談、介護、看護、PT)	花見(外出) 買い物	入浴研修(全員)(WEB研修)
5月	虐待防止委員会 接遇向上委員会(全員)認知症web・接遇チェック 生産性向上委員会(業務改善)	焼肉 屋外歩行訓練(外出)	高齢者人権擁護(WEB研修)全員
6月	接遇向上委員会(全員)認知症web・接遇チェック 生産性向上委員会(業務改善)	屋外歩行訓練(外出) ステーキ	災害BCP訓練(シミュレーション)全員
7月	接遇向上委員会(全員)認知症web・接遇チェック 生産性向上委員会(業務改善) 虐待防止・身体拘束委員会	かき氷、うなぎ フルーツかき氷 屋外歩行訓練(外出)	高齢者虐待防止(web研修)全員
8月	接遇向上委員会(全員)認知症web・接遇チェック 生産性向上委員会(業務改善)	夏祭り 買い物	災害BCP研修(WEB研修)全員
9月	接遇向上委員会(全員)認知症web・接遇チェック 生産性向上委員会(業務改善) 感染症委員会	敬老会 買い物	
10月	生産性向上委員会(業務改善) (介護・PTの知識)	日帰り旅行 ハロウィン交流会 さんまと豚汁(大鍋)	
11月	接遇向上委員会 認知症web 生産性向上委員会(業務改善) (介護・PTの知識 個別リハ)	紅葉狩り(外出) 焼いも 買い物	避難訓練 全員 利用者参加
12月	接遇向上委員会 認知症web 生産性向上委員会(業務改善) (介護・PTの知識 個別リハ)	クリスマス会 買い物	
1月	接遇向上委員会 認知症web 生産性向上委員会(業務改善) (介護・PTの知識 個別リハ)	新年会・初詣 ランチバイキング 買い物	
2月	接遇向上委員会 認知症web 生産性向上委員会(業務改善) (介護・PTの知識 個別リハ、マシンの見直し)	節分会 刺身船盛 買い物	感染症(BCP)予防蔓延防止シミュレーション
3月	接遇向上委員会 認知症web 生産性向上委員会(業務改善) (介護・PTの知識 個別リハ、マシンの見直し)	子ども交流会(卒園式) 買い物 花見・寿司海鮮丼	避難訓練 全員 利用者参加

作成上の注意) 文章にしない、箇条書きにする、数値化する、主語(何、誰など)を明確にする

5. 当年度の収支計数・前提条件

収支計数		前提条件	
目標事業活動収入	82,725千円	施設定員	45人
目標稼働率	73.00%	平均利用者数(年間営業日数平均)	33人
事業活動支予算額	73,304千円	単位/1利用者あたり収入	8,042円
目標事業活動資金収支差額	9,421千円		
稼働率: 入所・デイ・保育: 期間中延べ利用者数 ÷ (営業日数 × 1日の利用定員)		重点加算(=事業所サービスの特徴)	機能訓練加算Ⅰ
訪問: 期間中サービス提供時間数 ÷ 期間中勤務延べ時間数			機能訓練加算Ⅱ
単位: 1営業日あたりの数値		自事業所の戦略人材とは?	介護・リハビリ知識が向上している人材